

皆さんこんにちは、日本共産党の我如古一郎です。個人質問を行います。

うさぎ追いしかの山、小鮎釣りしかの川、夢は今もめぐりて・・・「忘れがたきふるさと」、東日本の3県で今年一番多く歌われたのではないのでしょうか。未曾有の大災害となった3・11から9ヶ月を過ぎました。

震災と原発災害で被災者は、ふるさとを追われ、生まれ親しんだ故郷の地形も家族も仕事も家も失ったことへの、思いをこの唄に託して涙しました。被災地の皆さんは、全国民の支援に暖かい「絆」を感じ、頑張っています。

一日も早い復興と生活を取り戻せるよう、政治の責任は重大です。私も支援を継続したいと思います。

日本人はだれでも、この「ふるさと」という歌が好きではないのでしょうか。山や川の豊かな自然と遊んだ郷愁。都市化への道をひた進んでいる我が那覇市ですが、このまま開発ばかりのコンクリート都市で良いのか。

今一度立ち止まってみて、今回は住みよい環境と自然保護について、と防災について提案できればと思います。

では質問いたします。

#### 1、 那覇市内の河川と排水路の浄化について質問します

- (1) 河川と排水路の浄化を図ることは単に、市民の生活環境の改善であるばかりではなく、観光立県をめざす沖縄の県都として、きれいな風景を観光客に提供するという、最重要課題であると思うが、見解を問います
- (2) 那覇市の河川などの浄化に必要な課題は何か。河川の環境基準を改善するために、現在どのような対策を行っているか。見解を問います
- (3) アパートなどのベランダにある洗濯排水は、どこに流出しているのでしょうか。
- (4) 事業所の排水規制に該当しない小規模事業所の排水はどのように処理されているか。本来あるべき処理方法を問います。

次に

#### 2、 防災行政について質問します

- (1) 本市の次年度の防災に関する方針を問います。  
防災室の体制の強化こそ、第一に行うべき課題ではないのか。見解を問います
- (2) 自主防災組織に配備する防災資機材を年次的に整備していく必要があると思います。また、避難所となる公共施設・学校施設などに対する防災資機材の設置を検討すべきではないのでしょうか。見解を問います
- (3) 防災に関する知識と啓発、自主防災組織の支援、防災関係機関職員の研修、防災用品の展示、台風や浸水被害・地震津波などの研究・情報発信など総合的な施設である、「沖縄県防災センター」の設置を県に提案すべきと考えます。見解を問います。

次に

#### 3、 松くい虫対策について質問します

街の景観をつくり、潤いのある街づくりに欠かせない松の大木を守るために、昨年 12

月議会で、全庁的に対策を行うチームを作るべきと提案したが、その後の対応を問います。

残り時間は、自席にて行います。

答弁を受けまして

河川浄化について再質問します

再質問

古いアパートのベランダ洗濯排水はどのように指導しているのか、問います

また、小規模事業所からの排水が処理されずに側溝に流れ、悪臭が発生しているとの苦情もあるが、現状をどのように認識し指導しているのか。

再質問

小規模事業所の排水問題は、零細企業の保護や地場産業の育成の観点から単に指導するだけではなく、浄化槽設置などの設置費用の支援措置が不可欠と思うが見解を問います

河川や排水路の浄化のためには、事業所の協力が必要です。しかし小規模の零細事業所は、高額な資金のいる、排水の浄化槽を設置できるほどの力を持っていません。地場産業を保護しながら、排水規制を徹底し、河川の浄化を図らなければなりません。設置のための助成が必要・不可欠であることを強調しておきます。

また、側溝の悪臭を放置せず、当面の間は定期的な洗浄を施すことも必要であることも指摘しておきたいと思います。

次に、防災行政について再質問します。

私たち日本共産党市議団は、防災の先進地、静岡県沼津市などを視察して学んでまいりました。市長にも防災対策の27項目の提言を行い、9月議会で総合的な防災対策を求めました。さっそく海拔標示や防災資機材の備蓄に動いていることを評価すると共に、最新のハザードマップの作成を急ぐことが求められています。

再質問

そこで再質問いたします、

今議会でも明らかになった、本市の津波避難タワーの構想は、沼津市などで設置されました。しかし、今回の東日本の大津波には対応できないという弱点が指摘されています。国も考えられる最悪の事態を想定して対策を取ることを求めています。この指針に照らせば那覇市が検討している高さでも不十分です。4階5階以上の建物に避難するという避難計画との整合性など、この施策を実施する場合には、専門家・有識者の意見をよく聞いて、避難場所として十分なのか、費用対効果という点なども検証しながら努力していただきたいと思

います。見解を問います。

想定される津波の高さに対応できる避難タワーにすることが必要です。このような施策を検討するためにも、本市独自に有識者を含めた「津波対策検討委員会」を立ち上げ、しっかりした防災対策を構築すべきと思います。

再質問をいたします。

自助・共助という防災意識の向上・啓発と地域防災力を高めるためにも、自主防災組織の結成数を増やし、そこに防災資機材の整備強化を図っていくことが重要です。

皆さんにお配りした写真資料は、静岡県の防災センターに展示されている、防災資機材の一部です。大規模災害時における問題のひとつはトイレです。新庁舎のエレベーター内に、通常はイスに使い、非常時はトイレに使えるエレベーターチェアの設置と、簡易テント式のトイレの備蓄などを提案します。またこれらを他の公共施設などにも増やすべきではないでしょうか。発電機や飲料水ろ過機なども、今からできることを実行すべきではないかと思います。対応を問います。

《コメント》

いつ起きるかわからない大災害に備える準備は、「予算が」と言っている場合ではないと思います。対応を早くするよう要求いたします。

次に

松の保全対策について再質問します。

再質問

私が昨年、対策を求めた以降も、多くの松が被害にあっています。原野や墓地および民有地で処理の対象でない場所の枯れた松はどのようになっているのか。対応を伺います

(経済観光部)

私が求めた全庁的な対策というのには理由があります。松くい虫の大きな特徴は、どこに生えている松であろうと松くい虫によって枯れた松から、新たな成虫が健康な松に寄生し、その被害が止まるところを知らず、広がっていきます。民有地だからとか、業務外だからと手をこまねいては、那覇市の松の大木は全滅してしまいます。私が要求しているのは。それを防止する行政機能の構築です。しかし、現実にはいまだにたらい回しの状態です。

現在の行政区分では、松くい虫対策は、部分的で縦割り行政の象徴のような対策しかできません。直接的な担当部署の商工農水課は、林業振興に関するわずかな対策しかなく、民間には及びません。

環境保全課は、松くい虫対策そのものが業務に該当しないとっています。

再質問

では、いま一度、都市計画部に伺います。例えば、街の景観に重要なアクセントと潤いをもたらしている見事な松の大木を、せめて景観資源として指定し、地域と行政が共に守る制

度は作れるのでしょうか。

景観資源という制度でも、実際に守るには高いハードルがあることが解りました。ほとんど他人事のように聞こえます。

最後に市長にお聞きします。

県花のデイゴの大木を枯らすヒメコバチも松くい虫も、全方位の強力な対策がなければ、樹齢数十年という大木も枯らしてしまうほどの深刻な状況が広がっています。なのに、本市においてそのことを心配する部署がありません。肝心なのは、枯れた松の処分も大事なのですが、枯らさないことなのです。世界遺産の識名園の松の木が枯れたら、また植えればいいというものではないことは、はっきりしています。「県や周りの市町村の連携が」と言って、その動きを待っていては遅すぎます。

何とかできないものかという時に、市長は政治判断が求められると思います。見解を求めます。

**閉めに述べる** 屋上緑化には熱心な市長が、なぜ木を守ることに冷たいのでしょうか？

かつて、琉球王朝の大政治家、蔡温は沖縄中に松を植え、樹木の持つ環境保全力で庶民に多くの恵を残しました。首里城から識名園までの石畳道は、道の両側に松林が広がり、風光明媚な風景であったと聞いています。

今ある松の大木を守ることは、未来の子どもたちに、かつての琉球の面影を残すことです。街の風景に歴史を感じる大木は、立派な景観資源ではないのでしょうか。豊かな自然と潤いのある風景をつくるために、改めて全庁的な対策を求めまして、

私の個人質問を終わります。

**もし時間があれば、**

河川浄化のための、河川水量の維持に効果がある、雨水地下浸透枘の設置促進を促す。

本市の川は、流域が短く雨はすぐ海に流れてしまう。地下水の減少が河川の水量を少なくしており、この施策は大いに有効である。また、短時間の豪雨災害防止も効果を発揮する。